

● マツ材線虫病防除の基本原則

マツ材線虫病防除に取り組もうとする皆さんに、まず、最初に理解し、心得ておいていただきたいことを、以下にあげます。敵を知り、現実的で効果的な対応を考えることは、防除成功への第一歩です。

▶ マツ材線虫病防除は伝染病対策である

マツ材線虫病は病原体マツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリ等の媒介者によって運ばれて広がる伝染病です。「普通の害虫」の防除と同じように対応しても、防除はうまくいきません。

▶ マツ材線虫病防除は難事業である

マツノザイセンチュウは日本の松にとっては外来の侵入病原体で、その感染力や致死率は驚異的です。この強力な病原体が、高い増殖力や移動能力を有するマツノマダラカミキリによって媒介されるマツ材線虫病は、征圧することが極めて困難な伝染病です。また、所かまわず発生する被害木を漏れなく探し出したり、大きな松の枯れ木を処理したりするのは大変な作業で、そのための予算や労力を確保することも、今の日本では極めて困難です。

▶ 被害を抑制できないのは防除の不徹底による

上述の通りマツ材線虫病防除は難事業であり、簡単には成功しません。防除をしたつもりなのに成果が出ないと、気象要因や大気汚染など、なにか別の要因のせいにはしたくなりますが、まずは自分たちが行っている防除を見直してみる必要があります。防除がうまくいかないときには、計画に無理があったり、手法に不備があったりして、防除自体が不徹底となっていないか、十分に検証し改善を図ることが大切です。

▶ 防除の推進に向け、協力と連携を

松林には所有者がいます。防除の実施には所有者の承諾が必要です。また松林は人里近くに分布していることが多く、スムーズな防除作業の実施には地元の理解が不可欠です。マツ材線虫病への対策は被害分布に応じて適切に計画される必要がありますが、被害分布は人の作った行政区画には従いません。現実の被害状況に対応できるよう、関係者間での連携を図ることが重要です。

▶ エリアを絞って、確実に守りきる

難事業であるマツ材線虫病防除を実施するには相応の予算と労力が必要です。逆に言えば、投入できる予算と労力によって実施できる防除対策は制限されます。限られた予算、労力で確実な成果を得るには、守るべき、かつ守ることの可能な松林を選別し、防除努力を集中するしかありません。実現可能な計画に基づき、小さな成功を積み重ねることが、地域の松や松林を守ることにつながります。



鹿児島県吹上浜で見られた激甚なマツ材線虫病の被害（1995年）